無限大なる口承表現の創出へ

講談＆浪曲、水を得て、現代に華開く！

9月17日(木)午前10時電話予約開始

≪口演後、高畑勲氏をゲストに迎え、鼎談を開催！≫

アニメーション映画監督

高畑勲アニメ作品に挑む講談＆浪曲の会

声だけで、あなたの心と脳、揺さぶります。

神田陽司(講談)

講談版「母をたずねて三千里」

世界名作劇場・日本アニメーション『母をたずねて三千里』(演出:高畑勲)より

玉川奈々福(浪曲) 曲師:沢村豊子

浪曲版「平成狸合戦ぽんぽこ」

スタジオジブリ『平成狸合戦ぽんぽこ』(原作・脚本・監督:高畑勲)より

講談や浪曲は、現代において「古典芸能」というジャンルで捉えられています。しかし本来、講談や浪曲は、常に同時代の文芸作品など他の芸術作品を素材にし、新たな物語を創作してきました。今回、講談と浪曲という口承芸術が、日本アニメ界の巨匠高畑勲氏の人気アニメ作品の二作に着想を得て、新たに創作に挑戦するという、稀有な公演が実現いたしました。

世界名作劇場のＴＶアニメで一世を風靡した『母をたずねて三千里』に挑むのは、講談界きっての新作派で、高畑勲氏に心酔している講談師・神田陽司。全５２話に亘る少年マルコ・ロッシの感動大作を、どのように講談化するのか興味が尽きません。

一方、『平成狸合戦ぽんぽこ』に挑むのは、寺山修司作品を手がけるなど、新作浪曲を次々と発表する若手浪曲師・玉川奈々福。ジブリアニメの人気劇場作品で、古今亭志ん朝をはじめ多くの噺家が声優を務めるなど古典芸能とも縁のある名作アニメを、どうやって浪曲化するのか、これまた注目の口演です。

高畑勲アニメ作品を愛した二人が、高畑勲アニメ作品に、「声」だけで立ち向かいます。是非とも、二つのアニメ作品をもう一度思い返していただき、講談化と浪曲化への調理術をお楽しみいただけたら嬉しく思います。

また口演後には、高畑勲氏を迎え、演者と共に口承芸能とアニメについての鼎談を行います。伝統芸能にも大変造詣の深い、高畑氏による講評や演出論などが聞ける、貴重な機会をお見逃しなく。



神田陽司(講談)

平成2年二代目神田山陽に入門。平成15年真打昇進。レポート講談、新作講談を数多く発表している。代表的なものに、『阪神大震災』『講談ビル・ゲイツ』がある。新作講談のネタは、時事ネタをはじめ、得意の「坂本龍馬」関連、芥川龍之介、シェイクスピア、ヴィクトル・ユゴーなど多岐にわたる。



玉川奈々福(浪曲)

平成7年7月7日玉川福太郎に入門。平成13年より浪曲師としても活動。平成18年12月、芸名を美穂子から奈々福に改め名披露目興行を行う。平成19年浪曲ユニット「浪曲乙女組！」結成。「浪曲シンデレラ」「金魚夢幻」など新作浪曲が高い評価を得るほか、寺山修司作「新宿お七」を口演するなど、浪曲界では唯一無二の展開をみせている。



高畑勲(アニメ監督／ゲスト)

1935年、三重県生まれ。東京大学仏文科卒業後、東映動画へ入社。テレビ「狼少年ケン」で初演出。劇場用映画「太陽の王子ホルスの大冒険」で初監督。主な演出・監督作品は、「アルプスの少女ハイジ」、「母をたずねて三千里」、「赤毛のアン」(以上 TV)、「セロ弾きのゴーシュ」、「じゃりン子チエ」、「火垂るの墓」、「おもひでぽろぽろ」、「平成狸合戦ぽんぽこ」、「ホーホケキョとなりの山田くん」など。他に、「王と鳥」(ポール・グリモー監督、ジャック・プレヴェール脚本)などの日本語版翻訳・演出なども手がける。2009年8月スイス・ロカルノ国際映画祭で名誉豹賞を受賞。

2009年 11月7日(土) 午後1時開演

武蔵野芸能劇場(JR三鷹駅北口徒歩1分)

全席指定 3000円 (限定154席)

9月17日(木)午前10時電話予約開始

チケットのお申し込みは(財)武蔵野文化事業団へ

TEL 0422－54－2011

※他のプレイガイドでの販売はありません。